

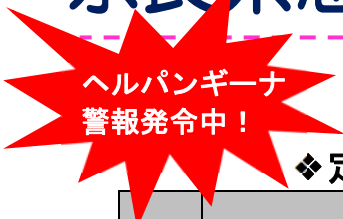


奈良県感染症情報

令和5年 第26週(6月26日～7月2日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183



今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	新型コロナウイルス感染症	7.89	(5.58)	↑	↑	↑	↑
2	ヘルパンギーナ	6.47	(5.38)	↑	↗	↑	↑↑
3	RSウイルス感染症	3.00	(4.21)	↘	→	↘	↘
4	感染性胃腸炎	2.68	(5.29)	↓	↘	↓	↘
5	A群溶連菌咽頭炎	2.44	(2.29)	↗	↗	↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は7.89です。定点把握になって以降やや増加でありましたが、今週は増加になりました。今後急増に転じないためにも基本的な感染対策の徹底をお願いします。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数が9年ぶりに警報開始基準値である「6.0」を上回りました。奈良市以外の全地域で増加しているため注意が必要です。特に中和保健所管内西部地域では4週連続で大きく「6.0」を上回っています。また、吉野保健所管内は8.67で前週の3.33から急増しています。ヘルパンギーナは、発熱や口の中に水疱性の発疹ができる疾患で、発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口の中の痛みにより水が飲みにくくなって脱水症状を起こすこともあるため、子供の様子に注意しましょう。

RSウイルス感染症の報告数は減少傾向ですが、まだ注意が必要です。引き続き、感染予防を心がけましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(田中小児科医院)

ヘルパンギーナとRSウイルス感染症は続いている。
 溶連菌感染症、アデノウイルス感染症が見られる。
 COVID-19が散見される。感染性胃腸炎は減少した。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

アデノ、RS、ヘルパンギーナ、A群溶血性連鎖球菌などの高熱の夏風邪が流行中。手足口病はなかった。

COVID-19は微増。蕁麻疹のみを主訴の児で、詳しい問診で37℃の例でCOVID-19陽性例があり感染対策上警戒はまだ必要。

感染性腸炎も流行持続。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナが大流行中。高熱1~2日、咽頭痛が強く、プールや水遊びでも流行している。

アデノウイルス、手足口病もみられる。下痢の遷延する胃腸炎も増加している。

COVID-19は徐々に増加、インフルエンザの流行はおさまってきている。

遷延する発熱・咳嗽からはRSウイルス、パラインフルエンザウイルス3型、4型、ヒトライノウイルスが検出されている。



出典:厚生労働省 HP
<https://www.mhlw.go.jp/content/001093687.pdf>

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

